National Hospital Medical Technology

国臨協関信

H.P: http://www.alpha-net.ne.jp/users2/kansinko/

平成19年11月

事務局　〒162-0052 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療センター臨床検査部内
発行者　三浦隆雄
編集委員　深澤文子・小松久人・竹田信邦
印刷所　東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443

支部長挨拶

NHO東京病院
三　浦　隆　雄

第35回関信支部定期総会におきまして、平成19年度も支部長としての大役を努めさせていただくこととなりました。新執行部一同、関信支部の活性化のために精一杯努めさせていただきますので、引き続き皆様のお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

前年度の支部活動では、会期当初に理事会で提案された事項のほとんどを達成することができました。その中で特筆すべき事項として、以下のことがありました。

1．「退職会員を囲む合同交流会」を企画し、役職に関係なく退職会員10名の皆様と多数の現役・OB会員の参集が得られ盛会に開催することができました。
2．臨床検査専門職との共催において、主任臨床検査技師を対象とした教育研修会を初めて機構本部講堂を会場として企画し、多数の参加が得られました。
3．関信支部学会運営を見直し、技師長協議会関東信越支部総会との同日同会場での開催を企画、試行しました。その結果、支部会員540名の約７割にあたる多数の会員参加が得られ大盛会となりました。
4．地区会活性化を趣旨とした「地区会活動助成金」の支給が総会にて承認され、地区会からの研修会等への支援要望に応えることができました。
5．ホームページを全面的にリニューアルし、掲載内容の充実に努めました。是非一度クリックしてご意見をいただきたく思います。

以上のいずれもが初めての事ばかりのため、支部役員のなかにも戸惑いもありましたが、多くの皆様のご理解とご協力により、一定の成果が得られ概ね好評であったと認識しております。

さて、本年度の支部活動はこれまでの事業を更に継続発展させるとともに、会員の皆様の目線に立って現状否定の精神で会務に努めてまいります。とくに臨床検査専門職や技師長協議会そして国臨協本部との今まで以上の意見交換や連携強化は、永遠の課題「臨床検査部門の質的向上と活性化」につながるものと考えます。支部役員だけでできることは限られています。会員の皆様のご支援ご協力がなければほとんど何もできないのですから、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、暑かった夏とともに退任されました前役員の皆様、休日返上が多くストレスたっぷりの会務、大変にお疲れ様でございました。ここに改めて謝意を表します。
ありがとうございました。

第35回 関信支部学会・総会を終えて

NHO埼玉病院
副支部長　松　林　　守

第35回国立病院臨床検査技師会関信支部学会・総会を９月１日（土）、国立国際医療センターにて開催しました。学会メインテーマを『飛躍　－質の向上を求めて－』と題し、新しい企画を取り入れるなど、会員の視点に立った支部学会の開催に向け役員一丸となって取り組みました。今学会では、一般演題の発表会場を３会場に増やし、新企画として微生物・超音波学術セミナーを開催しました。また、技師長会との連携を目的に技師長会総会との同日開催も試みました。

一般演題は、昨年の35題から44題と増え、症例を中心とした診断に関する発表、日常業務を通しての検査法の向上と追及・診療支援など大変興味深い内容が多く、どの発表会場も大勢の会員で埋め尽くされていました。

学術講演は、東北大学の長沢光章先生に「微生物検査における最新のトピックス」と題して、感染症法改正のポイントと対応・品質保証・多剤耐性緑膿菌・専門技師制度など幅広い内容でご講演していただきました。

教育講演では、国立精神神経センター総長　樋口輝彦先生に「うつ病を知る、癒す、支える」と題してご講演していただきました。

学会セレモニーは、来賓として関信ブロック事務所から加藤医療課長と奥田臨床検査専門職、そして国臨協本部からは坂本会長にご臨席を賜りご挨拶をいただきました。

また、学会賞は田島選考委員長より選考結果が報告され、学会学術奨励賞は西群馬病院　松本善信主任技師の「パルス組織ドプラ法を用いた左室拡張能の検討」、学会特別賞は東長野病院　三科舞子技師の「当院検査科における重心病棟検診への取り組み第三報（重症心身障害者における心電図の特徴）」が受賞しました。また、関信支部表彰は各地区会から推薦を受けた８名を表彰し、記念品と賞状を授与いたしました。

定期総会は、議長に杉澤　頼昭氏（国立精神神経センター国府台病院）を選出し、平成18年度事業経過報告に始まり新年度事業方針・予算・第三号議案（地区会活動助成金の支給）など全てに承認を頂きました。

総会終了後には、初めての試みであるシンポジウム方式による超音波・微生物検査学術セミナーが開催され、同時に第一会場で技師長協議会総会も行なわれました。また、懇親会は会場を戸山サンライズに移し、予想を越える90名のご出席をいただき、終始和やかな雰囲気で親睦と交流を深め盛会裏に終了することができました。

最後になりましたが、支部学会開催にあたり国立国際医療センター・国際協力局関係各位、並びに学会運営にご協力いただきました会員の皆様に心よりお礼を申し上げます。

平成19年度 第35回定期総会議事録（要旨）

日時：平成19年９月１日（土）15時20分～16時00分
場所：国立国際医療センター国際協力局　５階会議室

１．開会の辞　松林事務局長
２．議長選出
　１）議長　杉澤　頼昭（国立精神・神経センター国府台病院）
　２）書記　立川　康則（独立行政法人国立病院機構埼玉病院）
　　北沢　敏男（国立国際医療センター）
３．支部長挨拶
　平成17年度の活動内容および平成19年度事業方針について、ご審議よろしくお願いいたします。
４．審議事項
　１）平成18年度経過報告について
　　松林事務局長から総括および事務局経過報告、各部より経過報告が行われた。
　　渉外部　川村理事
　　学術部　小松理事
　　広報部　竹田理事
　（抄録集付定期総会議案書参照）
　２）平成18年度会計報告
　　益田会計担当理事より報告。
　（別紙配布試料参照）
　３）平成18年度会計監査報告
　　霜田　重雄（独立行政法人国立病院機構高崎病院）会計監査より報告
　　平成19年８月17日（金）国立国際医療センターにおいて、下記の通り会計監査を行いましたので報告いたします。
　　①監査内容：平成18年度一般会計
　　（平成18年９月１日～平成19年８月31日）
　　②講評：一般会計の予算執行は適正であり、収入支出台帳をはじめ帳簿整理、証拠書類、預金通帳、現金管理等すべて適正に行われていることを認めます。
　【質疑応答】
　＜フロアーからの質疑なし＞
　付）第34回国臨協関信支部学会特別会計報告
　　（会場でプロジェクターにより報告）
　　吉田理事より報告。
　【質疑応答】
　＜フロアーからの質疑なし＞
　＜平成18年度経過報告、平成18年度会計報告、平成18年度会計監査報告、第34回国臨協関信支部学会特別会計報告について拍手多数で承認された＞
　４）第１号議案
　　平成19年度事業方針（案）について各部より提案。
　　総　括　三浦支部長
　　事務局　松林事務局長
　　渉外部　川村理事
　　学術部　小松理事
　　広報部　竹田理事
　（抄録集付定期総会議案書参照）
　５）第２号議案
　　平成19年度予算（案）について
　　益田会計担当理事より提案
　６）第３号議案
　　地区会活動助成金の支給について
　　松林事務局長より提案
　【質疑応答】
　質問：大野　清（国立療養所栗生楽泉園）
　　地区会に助成することは賛成であるが、地区会の会員数がまちまちであるのに対して一律で支給するという根拠を教えていただきたい。提案として、一律ではなく地区会の人数に応じた支給方法とするということも一案ではないかと思うが如何か。
　回答：三浦支部長
　　勉強会の開催は、地区会の会員数の多少にかかわらず同じ様に経費がかかる。そのため一律支給とした。支給金額の多少については今後継続して検討する必要があると思われる。
　＜第１号議案、第2号議案、第3号議案について拍手多数で承認された＞
５．役員選出および新旧役員挨拶
　杉村　有司（国立精神・神経センター武蔵病院）役員推薦委員長より役員候補者が発表された。

支部長	三浦	隆雄	国立病院機構東京病院（留任）
副支部長	吉田	和浩	国立病院機構村山医療センター（留任）
	松林	守	国立病院機構埼玉病院（新任）
事務局長	渡司	博幸	国立精神・神経センター武蔵病院（新任）
常任理事	竹田	信邦	国立病院機構東京病院（留任）
	益田	泰蔵	国立がんセンター中央病院（留任）
	小松	久人	国立成育医療センター（留任）
	川村	公彦	国立がんセンター東病院（留任）
	深澤	文子	国立病院機構東京医療センター（新任）
	北沢	敏男	国立国際医療センター（新任）
	大谷	雅彦	国立精神・神経医療センター国府台病院（新任）
	木村	正行	国立病院機構相模原病院（新任）
会計監査	小松	和典	国立病院機構長野病院（新任）
	川畑	久	国立病院機構甲府病院（新任）
役員推薦委員	杉村	有司	国立精神・神経センター武蔵病院（留任）
	原田	正一	国立病院機構西埼玉中央病院（留任）
	塩澤	勇治	国立病院機構久里浜アルコール症センター（留任）

　＜拍手多数で承認された＞
　新旧役員挨拶
　・退任役員挨拶
　太田副支部長　これからも支部と共に生きていきたいと思います。
　土志田理事　無事に終えることができましたのも、会員皆様のご協力のおかげです。お礼を申し上げます。
　吉田理事　理事を務めた2年間の経験を活かしていきたいと思います。
　大西理事　これからも支部に協力をしていきたいと思います。
　立川理事　いろいろ勉強になりました。ありがとうございました。
　・新任役員挨拶
　三浦支部長　皆様のご協力をいただければ、なんとかやっていけると思います。関信支部が益々発展しますよう努力いたしますのでよろしくお願いします。
６．議長、書記解任
７．閉会の辞
　松林事務局長

議事録作成　立川康則・北沢敏男

第35回国臨協関信支部学会
学会学術奨励賞及び学会特別賞選考委員会報告

選考委員長　田　島　紹　吉
（NHO宇都宮病院）

本学会の選考委員は技師長協議会より笹村理事、新潟地区会より中島会長、長野地区会より原田副会長、関信支部より吉田副支部長の各委員で構成されております。

昨年の定期総会にて承認された通り、本学会より従来の学会優秀賞が学会学術奨励賞と学会特別賞とに表彰名称が変更されました。

今年度の発表演題は44題、部門別では上位から生理部門の16題（36％）、続いて細菌部門７題、輸血部門（６題）、病理部門５題の順であり、専門学会での認定資格のある部門に集中していることが伺えます。他の部門でも通常業務の中から常にテーマを模索する事が必要と考えます。44題の内、学会学術奨励賞枠に区分される演題が29題、学会特別賞枠に区分される演題は15題ありました。

従来の選考方法に則り、一次選考として発表者及び施設名はブラインドで抄録の完成度を審査しました。特に、テーマのオリジナリティー、新鮮さ、研究対象及び方法の妥当性、結果と考察の説得力、そして臨床的な有用性、以上の点を念頭に置き、高得点の上位各３題を選考しました。

二次選考では、実際に発表を拝聴して抄録の修正の有無、時間配分、スライド内容、発表態度、質問に対する対応などを対象に審査しました。一次選考の採点と二次選考の採点を基に高得点演題各１題が選考されました。

学会学術奨励賞は松本善信主任技師他（NHO西群馬病院）が発表された「パルス組織ドプラ法を用いた左室拡張能の検討」、学会特別賞は三科舞子技師他（NHO東長野病院）の発表による「当院検査科における重心病棟検診への取り組み第三報（重症心身障害者における心電図の特徴）がそれぞれ受賞されました。

最後に選考委員会として、受賞演題はもちろんのこと他の演題についても、学会発表に留まらず関連学会誌への投稿を是非御願いしたいと思います。

学会奨励賞を受賞して

NHO西群馬病院
松　本　善　信

この度、第35回国臨協関信支部学会におきまして、学会奨励賞をいただくことができ、大変光栄に思っております。

今回発表いたしました演題は、「パルス組織ドプラ法を用いた左室拡張能の検討」です。パルスドプラによる僧帽弁血流速波形から得られたE/A、DCTのみの評価では、左室拡張能の評価は十分とは言えません。パルス組織ドプラ法を用いた僧帽弁輪速度波形から得られるE'、E/E'の情報を加えることにより、弛緩異常、偽正常化型の判断が容易となり、より正確な左室拡張能の評価が可能になります。又、E/E'は推定肺動脈楔入圧を推定することができ、心不全や高度弁膜症で左房圧上昇が疑われた時には、是非積極的に検査してもらいたい項目です。

今回の受賞は、私自身の力だけではとうてい成し得なかったものです。原技師長をはじめ検査科スタッフの協力のお陰と感謝しています。そしてなにより、中島副技師長には、抄録のまとめかた、スライド作成にあたりまして指導して頂き、大変勉強になりました。

また、日々の心臓、腹部、下肢血管、頸部血管、甲状腺の多種にわたる超音波検査業務のなかでは、厳しい的確な指示が飛び、悪戦苦闘する毎日です。しかしながら、このお陰で超音波検査の「心、技、知」をこの年齢になり知ることが出来ました。本当に心より感謝しています。

しっかりとした「心、技、知」を身につける為にも、今回の受賞に恥じない論文にして一歩一歩前に進んでいきたいと思います。

最後になりますが、学会を開催するにあたりご尽力いただいた国臨協関信支部役員および関係の方々に厚くお礼申し上げます。

広告
たて（テクノメディカ）

広告
たて（協和メディックス）

広告
たて（シノテスト）

学会特別賞を受賞して

NHO東長野病院
三　科　舞　子

この度、第35回国臨協関信支部学会におきまして学会特別賞いただく事ができ、大変光栄に思っております。

今回発表させていただいた演題は「当院検査科における重心病棟検診への取り組み－第三報－重症心身障害者における心電図の特徴」です。

重症心身障害者は介護を中心とし、検査の困難さなどからも病態をつかみきれず重篤になるケースも少なくありません。検査科では数年前から医師と連携して定期的に検体検査や生理検査を実施しています。今回は心電図検査について検討致しました。

心電図検査を行う上で重要な点は重心患者とのコミュニケーションです。重心患者の多くは意志疎通が困難な為、検査を行うことは極度のストレスとなり、筋電図混入やドリフトの原因ともなります。検査としての工夫だけでなく、普段から重心患者と接し日常の様子も把握しながら行うことで重心患者に負担の少ない検査を行うように心がけています。

今回このような賞を頂けたのは、諸先輩方が重心病棟検査について数年前から取り組まれたデータの蓄積が大変参考になりました。また、技師長、副技師長はじめ検査科スタッフからの細やかなご指導、ご協力のお陰と心より感謝しております。今後も定期検査を検討し、重心患者の病気予防に努めていきたいと考えております。

検査を行うにあたり、経験の少ない私にとってすべてが勉強となりました。私個人としても検査技師として知識、技術の向上に努めていきたいと思っております。

最後になりましたが、お世話になりました国臨協関信支部役員ならびに関係の方々に厚くお礼申し上げます。

支部表彰を受賞して

国立療養所栗生楽泉園
大　野　　清

9月1日（土）、第35回国臨協関信支部学会において支部表彰を戴き有難うございました。推薦していただいた群馬地区会にお礼を申し上げます。昭和49年11月に第2回学会が国立療養所中野病院（当時）で開催され、この時が初参加で学会の回数がほぼ在職年数になります。

私は国立王子病院に採用され7回転勤して8施設を勤務しました。総合病院3ヶ所、結核病院2ヶ所、温泉病院、精神病院、ハンセン療養所と経験させていただきました。

支部との関わりの中で「関信支部ニュース」を通して情報の発信など微力ながら協力できたかなと思っています。最初に掲載されたのは平成元年1月（第72号）の「フレッシュマン登場」として原稿を依頼され、何度も校正したことを覚えています。

平成14年3月（第138号）は関東信越厚生局（当時）の「プロジェクト21」について、プロジェクトチームの責任者としてその手法を掲載しました。投稿後は問い合わせもあり少しは役にたったのかなと思いました。

平成18年6月（第159号）では「らい予防法廃止から10年過ぎて」と題して、一般の方々にはまだまだ認識が薄いと思われますので、少しでも理解していただければ嬉しく思います。また、地区会長として群馬地区2回、栃木地区1回、「新年を迎えて」と題して投稿しました。地区会の総会では当園の元ハンセン病患者さんに講演していただいたことも印象に残っています。

ここまでこれたのも採用施設の城山先生、秦・渡邉両先輩のご指導や、それぞれの施設で良き上司、良き職員に恵まれたお陰と思っております。

最後に皆様のご健康とご活躍を祈念し、国臨協関信支部の益々のご発展をお祈り致します。

支部表彰を受賞して

国立療養所多磨全生園
飯　島　正　己

この度、第35回国臨協感信支部学会において支部表彰をして頂き有り難うございました。

国立埼玉病院に採用され、関信支部には約35年間在籍し、5回の転勤を経て6施設にお世話になりました。この間には、良き上司、良き先輩そして良き同僚に恵まれ、公私ともにご指導・ご厚情を頂きました。

関信支部の役員としては、会計担当理事として2年間勤めさせて頂きました。当時は関信支部の施設数も64＋1（心身障害リハビリテーションセンター病院）と多く、その当時の支部学会の抄録集をみると、シンポジウム（1）『これからの臨床検査－再編成問題をふまえて』（2）『臨調行政にかかわる国立医療機関の再編成問題について』（3）『共同利用の問題点と今後の課題』（4）『24時間体制・卒後教育・研修』（5）『これからの検査室のあり方』（6）『地域共同利用システムの施設間の対応について』等々盛り沢山でした。また、一般演題57題のうち生理部門は3題と少なく、当時の検査情勢をものがたっています。

学会当日には、昼食の弁当が『腐っているのではないか？』とクレームが付き、細菌検査培養を出したり、弁当を回収したりと対応が大変だったと記憶しています。

その当時は、生化学の検査項目や測定方法が続々と開発され、新規項目をいかに早くルーチンに導入するかと毎日遅くまで検討し、大変充実して日々を過ごしたことが想い起こされます。

受賞にあたり、関信支部会員の皆様、役員の皆様、そして職場の皆様に心から感謝いたします。関信支部に益々のご発展と会員の皆様のご健康とご活躍を祈念して、紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

第35回国臨協関信支部学会 特別講演より

NHO栃木病院　浅　里　　功

平成19年９月１日（土）第35回国臨協関信支部学会の特別講演にて樋口輝彦先生（国立精神・神経センター総長）をお迎えして「うつ病を知る、癒す、支える」というタイトルでうつ病の現状とその最新の対応策をご講演いただきました。講演ではまず、うつ病は誰でも罹りうるポピュラーな病気であると紹介されました。

現在、うつ病の有病率は6.5％（15人に一人）で生活習慣病と肩を並べる「心の生活習慣病」「心の風邪」であり、今後、さらに増加が予想される、とのことです。また、「心の風邪」は、早期発見、早期治療しないと「心の肺炎」となること、自殺はうつ病の15％に見られる、など侮れない病気であることも強調されました。症状は、いきなり気分の落ち込みや楽しめない状態が始まるわけではなく、睡眠障害、疲労・倦怠感、などの身体症状が先行するため、初期に看過されているケースがあり、専門医の診断が重要と説明されました。治療では、病気であり、治療によって良くなる性質であることを説明し①十分な休息、②薬は医師の指示どおり服用、③無理をせずやれることだけやる、また、軽快したら①うつ病に至った経緯の整理、②環境調整、③再発しないための予防、などを示されました。うつ病は「再発しやすい病気」で３割は慢性化、遷延化するため社会復帰の問題を抱えています。家族、職場など、周囲の人々の対応の仕方についての教育も不可欠とのことです。あらためて家庭、職場でのコミュニケーションの重要性を認識しました。

KKR第749号には職場のメンタルヘルスとして「サザエさん症候群」が掲載されています。日曜夜６時半「♪お魚くわえたドラ猫」のこの番組を見ると「ああ！これで休みは終わりだ、明日からまた働かなければいけない」と日曜日に気分が滅入るのが（これは普通）、これがさらに進むと金曜の夜にゆううつになるそうです。休みを休みとして楽しめない状態は問題であり、仕事がどうしてそんなに負担になるのか、仕事や職場での人間関係を一歩引いたところで考えては、と薦めています。

最後に樋口先生のお話ではうつ病の診断には「抑うつ気分」と「興味・喜び喪失」の２項目が重要だそうです。①この１ヶ月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがよくありましたか？②この１ヶ月間、どうも物事に対して興味がわかない、あるいはこころから楽しめない感じがよくありましたか？いかかでしょうか。

学術講演

臨床微生物における最新のトピックス 要旨

NHO東京病院　青　木　貞　男

第35回国臨協関信支部学会に於いて、東北大学病院診療技術部臨床検査技師長 長沢光章氏による学術講演が行われました。その要旨を掲載します。

１．検査の効率化

良質な検査運営のためには、標準法を作成する必要がある。学会等で標準法を作成した場合には最小限度のものになってしまうため、その施設の臨床にあった標準法を作成する必要がある。標準法を作成し、検査の効率化を図らなければ今後検査室は病院内に残れない。

２．ISO/TC212,ISO15189,ISO15190

国際標準化機構(ISO)は、臨床検査のための製品の標準化と検査結果及びその利用についての標準化の必要性を認識し、ISO/TC212,臨床検査と対外診断検査システムと名付けた専門委員会を発足させた。この専門委員会には、４つのワーキンググループ（ISO/TC212/WG1～WG4）があり,そこで審議されて発行された国際規格がISO15189,ISO15190である。ISO15189「臨床検査室―質と適合能力に対する特定事項」は、臨床検査室の質、すなわち、正確な測定結果と顧客（臨床医と患者）中心の適切なサービスを提供するために作成されたものであり、そのうちの安全について規定したものがISO15190「 臨床検査室―安全に対する要求事項」である。ISO15189は検査室の質を保証する手段として重要な価値を持つことから検査室がこの認証を持つことでその存在意義が増すと考えられ、今後真剣に取り組むべき事項となる。

３．感染症法の改正

今回の改正は、生物テロの未然防止の必要性、感染症をめぐる環境の変化、結核対策における見直しの必要性から、病原体等を一種病原体等から四種病原体等に分類された。二種から三種病原体等の所持については、厚生労働大臣の許可、届け出が必要となり、どの施設がどのような種類の病原体を所持しているかを国が一元管理することができる。病原体等を所持する施設には施設基準が適用される。また、病原体を運搬する場合には公安委員会に運搬の届け出（一～三種病原体等）が必要となる。三種病原体等に多剤耐性結核菌が含まれており、臨床検体（喀痰等）は規制の対象とはならないが、同定された時点で規制対象となるので注意が必要である。多剤耐性結核菌を所持しない場合は10日以内に滅菌等を実施しなければならない。

４．結核菌検査指針２００７

今回の改訂には、現場の検査技師が編集委員に加わりより実用的な指針になっている。検査室には、クラス２Ｂ以上の安全キャビネットの設置が義務づけられ、検査結果の報告は、塗抹検査24時間以内、分離・同定21日以内、感受性検査30日以内とするCDC勧告を踏まえている。塗抹検査は緊急の場合を除いて精度を保つために均一化・遠心集菌材料を塗抹検査に使用することになっている。また、薬剤感受性検査は、日常検査法として迅速性に優れた液体培地を用いた検査法を推奨している。

第35回国臨協関信支部学会

超音波検査セミナー

§さまざまな超音波検査における測定法

講義 1．乳腺超音波検査の進め方
武山　茂（国立がんセンター中央病院）
2．リンパ節と血管エコー
南雲　功（ＮＨＯ宇都宮病院）
3．胎児スクリーニング
湊川　靖之（ＮＨＯ水戸医療センター）

【セミナーを終えて】

長い歴史ある関信支部学会において、初めての企画として学術セミナーが開催され、特に注目度の高い超音波検査をテーマに講義内容・講師の先生方も含め専門学会のような雰囲気の中、多数の参加者と共に活気あるセミナーが行われました。

まず「乳腺超音波検査の進め方」の講義では、乳腺領域においてガイドラインに沿った認識が必要なことや、病理組織を常に念頭に入れた検査の重要性について特に着目しました。次に「リンパ節と血管エコー」の講義では、ユーモアあるわかり易い内容からリンパ節検査も奥が深いことや関心が高い血管エコー（頚部や下肢）にも興味がさらに深まったと思われます。また症例に対してその原因や転帰など、調査の積み重ねや探求心が知識や技術の向上に最も不可欠であることを再認識しました。最後の「胎児スクリーニング」の講義では、高度専門医療の貴重な症例画像を数多く見せて頂き、臨床検査技師（超音波検査士）が胎児に対する診療にここまで関わることが可能になったことに驚きを感じました。

今回のセミナーを通じて感じたことは、生理検査の一つであった超音波の業務領域や技師の存在が確立し、各施設において超音波検査の重要性が高いことを実感しました。しかし今後の課題として、超音波検査技術の質を更に向上させ、放射線技師の台頭も予想される中、全体的な底上げ（レベルアップ）をしていかなくてはならないと考えます。そのためには、国臨協の中で技師間のさらなる連携を深め、昨年からの画期的な超音波検査研修制度の利用は勿論のこと、個々の弛みない努力が欠かせないと感じます。ただ検査技師の心の持ち方として、謙虚な気持ちで検査に取り組み症例（病変）と向き合うこと。またスキルアップができることへの諸先輩や周囲への感謝を忘れてはいけないこと。さらに技術や知識は伝承や還元が不可欠であること。これらも今後特に大切なことに思えます。

最後に、講師の先生方ならびに今回このような超音波検査セミナーを企画して頂いた関信支部役員の方々に心より感謝致します。

（司会担当：NHO西埼玉中央病院　上 條 敏 夫）

「第35回関信支部学会超音波セミナーに参加して」

国立精神神経センター武蔵病院
村　上　美恵子

平成19年９月１日（土）国立国際医療センターにおいて、第35回国臨協関信支部学会が開催されました。今回、この学会プログラムの一つである「超音波セミナー：さまざまな超音波における測定法」の勉強会に参加しました。
上条敏夫先生を中心に講師には、三人の先生方を招いての勉強会でした。

はじめに武山先生には、乳房および乳腺の正常構造と、正しい走査方法、検査のポイントなど疾患超音波画像とあわせてとてもわかりやすく勉強になりました。

南雲先生には、リンパ節と血管系についての講義でした。先生のお話で、超音波検査の解剖学的な知識はもとより、さらにリンパ系、脈管についての知識も必要である事をより強く感じました。また先生が、「膝下はエコーの独壇場である」とのお話から、超音波検査が臨床に役立つ範囲の広さを痛感しました。

そして湊川先生には、胎児の心臓について講義がありました。内容は観察の仕方、計測の方法、胎生期の疾患などとともに、胎生期の血流異常を精密に検査し胎盤に届いている血管のレーザー手術をおこなっている映像にはとても感動をしました。先生が、検査業務も含めた積極的な治療スタッフとして臨床を担っていることを感じました。

今回勉強会で、日常業務では経験できない内容ばかりで、大変勉強になりました。また司会の上条先生が、おっしゃっていたように、このようなすばらしい技術をもっている先生方が身近におられるのを誇りにして日々少しでも近づけるよう勉強と経験を積んでいこうと思います。

最後になりましたが、勉強会の司会そして講師をしていただいた上条先生、武山先生、南雲先生、湊川先生各先生方ならびに、勉強会を企画、運営してくださった関信支部役員の皆様にお礼を申し上げます。

広告
よこ（オリンパス）

広告
たて（シスメックス）

第35回国臨協関信支部学会
微生物セミナー

細菌検査セミナーの座長から

国立成育医療センター
ICMT　小　坂　　諭

国臨協関信支部皆様のご尽力で第37回国臨協関信支部学会において「細菌検査セミナー・感染制御チーム（ICT）における臨床検査技師の役割」が企画、開催されたことに微生物検査を担当する一員としてお礼を申し上げます。

パネラーとして４名の実際にICT業務に就かれている先生方をお迎えしお話いただきました。微生物検査室員１名から４名の施設、それぞれのお立場からのご発言でしたのでこれからICTを院内で立ち上げようとされている施設の方々にとりまして参考になったのではないかと思います。

ICDと専任ICNがいるかどうかでICTの実際の活動が左右されます。ICT活動に熱心なICD、ICNがいれば指導性が発揮されて良いのですが、異動でいなくなると衰退するのが昨今の実態です。NHO東京医療センターのICT活動は全国レベルに達しておりますのでぜひ参考として下さい。

微生物検査のブランチ化は相変わらず危惧される状況です。診療支援の一角を担うコメディカルの一員としてICT活動に参画するICMT（感染制御認定臨床微生物検査技師）の資格取得と活動はそれらを避ける積極的な方策と言えます。微生物検査を担当されておられる方々は是非認定試験にチャレンジされることを切に願っております。

微生物セミナーに参加して

ＮＨＯ水戸医療センター
吉　田　茂　久

平成19年９月１日（土）国立国際医療センターで開催された微生物セミナーに参加をしました。

今回、関信支部主催の学術セミナーは、第35回国臨協関信支部学会と同時に開催という初めての試みということもあり、開始時間が午後３時30分からという遅い時間にも係わらず、参加者が多く盛大に開催されました。

セミナーの内容は、「ＩＣＴ活動における微生物検査技師の役割について」ということでした。司会には感染制御認定微生物検査技師（ＩＣＴＭ）でもある、国立成育医療センター微生物検査主任技師小坂諭氏を迎えてセミナーが進められました。講師は、感染制御チーム活動（ＩＣＴ）に積極的に取り組んでいる施設の清水紀臣（ＮＨＯ高崎病院）、久高果市（ＮＨＯ横浜医療センター）、荘司路（ＮＨＯ東京医療センター）、望月規央（認定微生物検査技師）（ＮＨＯ西埼玉中央病院）の４氏でした。

講演内容は[１]ＩＣＴ設置の目的や職種構成・個別感染症への対応方法やマニュアル策定の必要性について、[２]永年培ったＩＣＴ活動を通じて、病院職員への講習会等での教育・広報活動の必要性について、[３]最新の微生物検査システムを用いてのＩＣＴ活動（ラウンド資料作製・運用等）の現状報告と今後の課題について、[４]他職種（医師・看護師等）との連携及び情報共有の必要性及び認定微生物検査技師の果たす役割と重要性についてなどでした。

講演終了後は、会員から多数の質疑が寄せられ、活発な意見交換がおこなわれました。

今回のセミナーを通じて、総合的な院内感染予防対策をおこなう上で臨床検査技師の果たす役割の大きさと重要性や形だけの院内感染対策のもたらす感染の拡大等の問題点などを再認識し、各施設で働く臨床検査技師の一層の努力及び意識改革が求められていることを感じました。また、学会とセミナーの同時開催を企画していただき、例年の学会よりさらに充実した催しであったことに感謝申し上げます。今後も、引き続きこのような形式でのセミナーが開催されることを願っています。

広告
たて（第一化学）

広告
よこ（和光）

支部学会、技師長会同時開催について

技師長協議会副会長　小　林　和　博

平成19年９月１日（土）第35回国立病院臨床検査技師協会関信支部学会・総会・国立病院臨床検査技師長協議会関信支部総会が開催されました。今年は定例の開催地であります国立国際医療センターに戻し、開催となりました。

残暑厳しいなか、早朝より予想をはるかに上回る多数の会員の参加をいただき盛況な会となりました。

また、本学会の初めての試みとして、今回から技師長協議会関信支部総会が同時開催されることになりました。

同日開催の目的は、参加者の負担を軽減することと、９月の第１週の土曜日に臨床検査技師が結集してそのパワーを内外に示そうとすることが一つの大きな狙いです。

国臨協関信支部の役員の皆様、会員の皆様と技師長会の会員の方々のご理解とご協力により実現されましたことを心から感謝いたします。

午前中の一般演題は44題を数え、３会場に分かれ発表されました。本学会のテーマ（飛躍～質の向上を求めて～）の通り、レベルの高い内容のものばかりで、日頃の研究成果をいかんなく発揮されたことと思います。続いての学術講演は、東北大学病院の長澤光章先生に「臨床微生物検査における最新のトピックス」と題し、講演をいただきました。

午後の部の教育講演では、国立精神・神経センター総長樋口輝彦先生に「うつ病を知る、癒す、支える」というテーマでお話しをいただきました。

その後、学会セレモニー、国臨協関信支部定期総会が行われ、同一会場で技師長協議会総会が定刻通り開催されました。全ての審議が承認され日程通り終了、閉会となりました。

引き続き、戸山サンライズに会場を移し、懇親会が開催されました。OBの方々を交え、和やかな雰囲気のなかで会員相互の親睦が図られました。

第１回目の同時開催は、支部役員の方々の運営の手際の良さと、いままでにない多数の会員の参加等、大いに盛り上がりを見せ、大成功であったと思われます。この会が来年以降も続けられますことを祈念いたします。

最後に、本学会の運営にあたり、前日より技師長会総会の会場づくりにご尽力いただきました国臨協関信支部の役員の皆様と早朝よりお手伝いいただきました会員の皆様に御礼申し上げます。

広告

よこ（アボット）

専門職のひとりごと　コラム

その5. 今年の関信支部学会に想うこと…

NHO関東信越ブロック事務所
臨床検査専門職　奥　田　　勲

今年も、恒例の「国臨協関信支部学会」が、９月１日（土）多数会員の参加を得て盛会裡に行われました。日常業務多忙ななか、遠方・近在より参加された皆様には大変お疲れ様でした。

私も、「すばらしい学会だった」と感じたひとりです。皆さんのなかにも、そのような感想を持たれている方が多いのではないでしょうか？

聞くところによると、今回は400名近い会員の参加をみたそうです。

私の知る限りでは、ここ数年の関信支部学会で最高の参加者数であり、各施設の日当直検査等で参加できなかった方々を含めると、その参加率は実に関信支部会員総数の70数％にのぼります。このことひとつ（学会参加率）とりあげても、今回の学会が「魅力ある内容（特別講演や教育講演、一般演題発表に加え、超音波・微生物・輸血の各種セミナーや勉強会開催など）」であったことに疑いの余地はないようです。１日という限られた（許された）時間内で、これら（新）企画を盛り込むため、私たちの見えないところで関係者は大変なご苦労をされたに違いありません。

あらためて、１年間をかけて鋭意準備を進めてこられた三浦支部長はじめ関信支部役員の皆さんの労をねぎらい、心よりお礼を申し上げたいと思います。

そして、もうひとつ今回の学会で私たちが忘れてはならないことがあります。それは、初の「関信支部学会と技師長協議会関東信越支部総会同日開催」の実現に、技師長協議会の全面的な協力が得られたということです。「魅力ある学会に」との支部役員の想い（情熱）を快く受け入れ応援して下さった杉村会長はじめ技師長協議会役員の方々のご理解、ならびに今提案に賛同された各施設の技師長さん方に感謝せずにはいられません。

私の好きな言葉に「夢はみるものではなく叶えるものである」「想いは必ず具現化する」というのがあります。「夢を叶えるためには、その想いを強く持ちつづけることが何より大切である。しかしそれが私利私欲に端を発したものであれば、決してその夢が叶うことはない」といったような意味になるのでしょうか。

今回、私たち関信支部会員ひとりひとりの想い（臨床検査をこよなく愛し、患者様のためにより良質な臨床検査を目指す志）が結集し、それが「関信支部学会の盛り上がり」という形で具現化されたのだと私は思っています。
この想い（結束力）があれば、私たちの今後に何ら障害はありません。

組織（臨床検査部門）として、また個人（臨床検査技師）として、必ずや明るい未来が約束されることでしょう。
そんな日に想いを馳せながら、これからもみんなで力を合わせて頑張っていきたいものです。

Information

19年度役員決定！

旧役員より
新役員へバトンタッチ

役職名（役職）	氏名	施設名
支部長（総括）	三浦　隆雄	NHO東京病院
副支部長（総括補佐・学術・渉外）	吉田　和浩	NHO村山医療センター
副支部長（総括補佐・広報・渉外）	松林　守	NHO埼玉病院
事務局長（事務局）	渡司　博幸	国立精神神経センター武蔵病院
理事（事務局総務）	北沢　敏男	国立国際医療センター
理事（事務局会計）	木村　正行	NHO相模原病院
理事（学術）	大谷　雅彦	国立精神神経センター国府台病院
理事（学術）	川村　公彦	国立がんセンター東病院
理事（学術）	益田　泰蔵	国立がんセンター中央病院
理事（広報・渉外）	深澤　文子	NHO東京医療センター
理事（広報・渉外）	小松　久人	国立成育医療センター
理事（広報・学術）	竹田　信邦	NHO東京病院
会計監査	小松　和典	NHO長野病院
	川畑　久	NHO甲府病院

多数の拍手により承認された新役員メンバー

研修会のご案内

第３回国臨協関信支部主催研修会（超音波）予定

日時：平成20年１月12日（土）10時～

場所：国立病院機構　東京医療センター１階病棟会議室

講師：〈臨床〉佐藤　俊行主任技師
（国立病院機構東京医療センター）
〈基礎〉斉藤　雅博　先生（持田シーメンス）

内容：超音波検査士認定試験対策（臨床と基礎）

人／事／異／動

（昇任・配置換・採用　平成19年10月１日付）

氏名	新施設名	役職名	旧施設名
武蔵　裕子	精・神センター武蔵	技師	多磨全生園
浅野　太貴	精・神センター武蔵	技師	国際医療
正木　裕子	循環器病センター	技師	精・神センター国府台
上野　晴菜	成育医療	技師	精・神センター武蔵
東澤　恭介	成育医療	技師	
橋本　碧	がんセンター中央	技師	
松枝　岳志	長野	技師	

（昇任・配置換・採用　平成19年11月１日付）

氏名	新施設名	役職名	旧施設名
後藤　美樹	がんセンター東病院	主任技師	がんセンター中央
佐藤　友香	がんセンター中央	技師	埼玉

編集後記

新体制がスタートして初めての支部ニュースが発行されました。本年度も会員の皆様のご意見ご指導に支えられながら広報部の活動を行いたいと考えております。

さて今年もあと一ヶ月余りとなりました。そろそろ今年を漢字一文字で表わす等の話題が出始める季節ですね。会員の皆様はいかがでしたでしょうか？私ですか？もちろん「肥」です。　（記：広報部・竹田）

広告
よこ（ＳＲＬ）

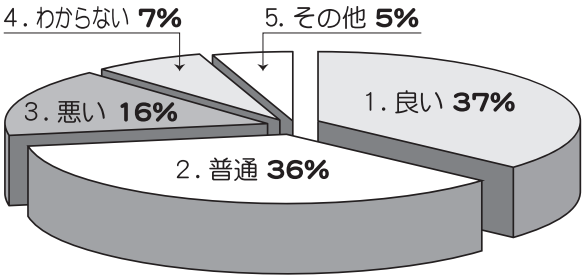
広告
よこ（富士レビオ）

関信支部アンケート調査結果

関信支部アンケートにご協力頂き有難うございました。
支部では、今回のアンケート調査結果を踏まえ、今後の活動に活かしていきたいと思います。
ご協力頂きました会員の皆様に心よりお礼を申し上げます。

1．今回の支部学会の企画運営はどうですか。

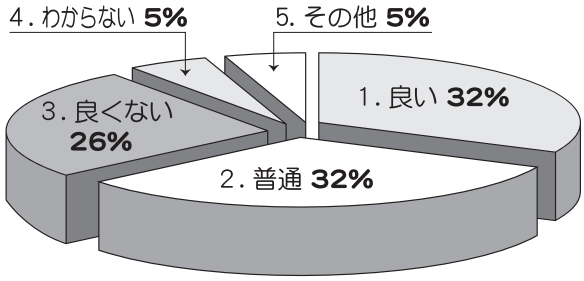
アンケート実施会員数　168名



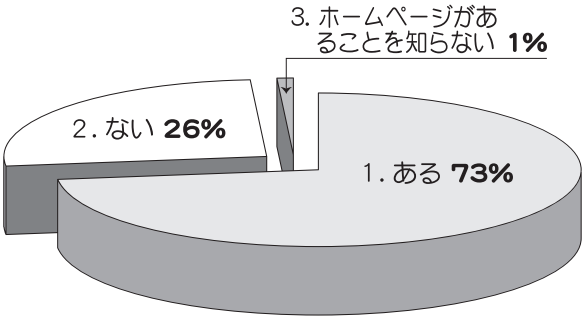
1．良い	62名	37%
2．普通	60名	36%
3．悪い	27名	16%
4．わからない	11名	7%
5．その他	8名	5%

2．学会抄録CDについてどう思いますか。

1．良い	53名	32%
2．普通	54名	32%
3．良くない	43名	26%
4．わからない	9名	5%
5．その他	9名	5%



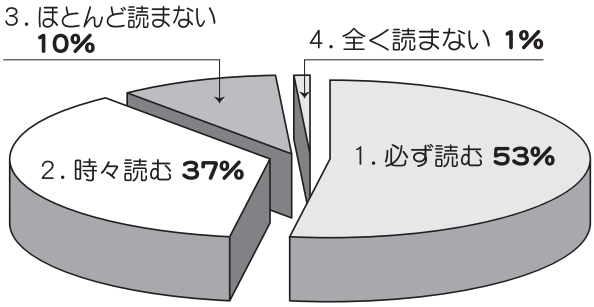
3．関信支部ホームページを閲覧したことがありますか。



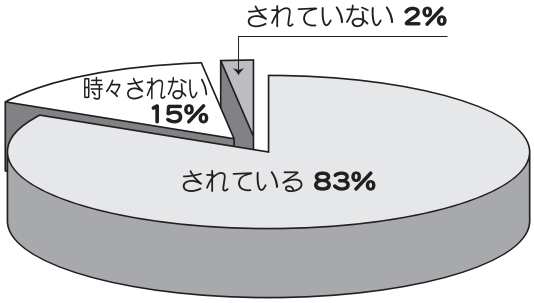
1．ある	124名	73%
2．ない	43名	26%
3．ホームページがあることを知らない	1名	1%

4．関信支部ニュースを読んでいますか。

1．必ず読む	88名	53%
2．時々読む	61名	37%
3．ほとんど読まない	17名	10%
4．全く読まない	1名	1%



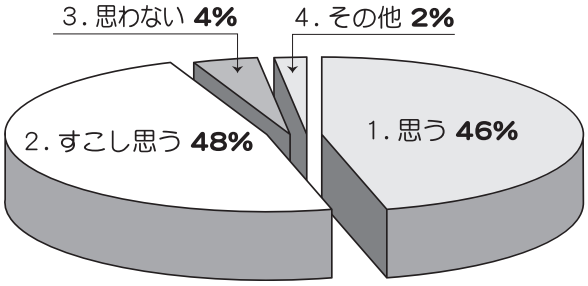
5．職場で支部情報は伝達されていますか。（研修会等）



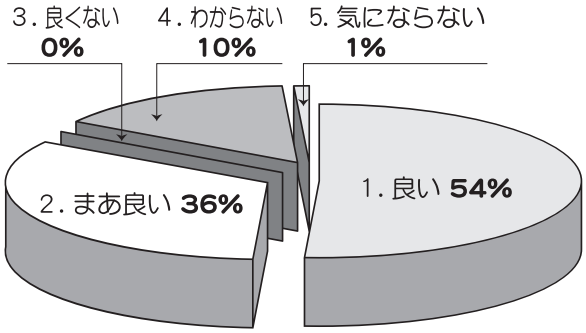
1．されている	140名	83%
2．時々されない	25名	15%
3．されていない	3名	2%

6．関信支部の活動には積極的に参加したいと思いますか。

1．思う	77名	46%
2．すこし思う	81名	48%
3．思わない	7名	4%
4．その他	3名	2%



7．関信支部の活動についてどう思いますか。



1．良い	91名	54%
2．まあ良い	59名	35%
3．よくない	0名	0%
4．わからない	16名	10%
5．気にならない	1名	1%

関信支部に対する御意見

- ICT・NSTに関する勉強会を開催していただきたい。
- 大変勝手な意見ですが、活動は必要だと思いますので続けて行くことは大切だと思います。
- 学会抄録のCDは止めるべきである。　きちんとした形で残らない、本として残したい。
- 抄録は本のほうが良いと思います。
- 病院の検査業務と支部活動　ご苦労様です。これからも会員のためによろしくお願いいたします。
- 抄録を本にしてほしい
- ご苦労様です。頑張ってください。
- 超音波セミナーはもっと早い時間から初めてもらえたら良かった。
- 本年は合同送別会や主任研修会など新たな業務に取り組み、ルチン業務で忙しい中大変だったと思います。会員から見ますととても良い一年だったと思いますので、次年度もよろしくお願いいたします。
- 学会抄録CDについては以前のように冊子での配布を冀望します。支部アンケートの設問に入れ（冊子・CD・どちらでもよい）、白黒はっきりしたら如何でしょうか。
- 第二会場、第三会場が狭すぎです。
- 特別講演、教育講演の一本化が望ましい。
- 研修会等をもう少し多くしてほしい。

以 上

地区会だより

千葉地区会

関信支部千葉地区会研修会・定期総会を終えて

NHO千葉医療センター　鳥　海　　洋

平成19年７月７日（土）ＮＨＯ千葉医療センター　地域医療研修センターにて、第26回関信支部千葉地区会研修会・定期総会がおこなわれました。会員53名の参加に加え来賓として、奥田臨床検査専門職、太田雅司、吉田和宏 両関信支部副支部長に出席をしていただきました。

特別講演として、全国各地で講演をされているデイドベーリング株式会社ヘルスケアソリューションマネージャーである松尾久昭先生をお招きし、『コミュニケーションに基づいた検査室機能強化』と題して講演をして頂きました。現在の検査科はいまだ病院内で他部門とのコミュニケーションが少ないという結果を基に他部門とのコミュニケーションの重要性をお話し頂き、また検査科でしかできないデータの管理方法など実例をあげながらお話し頂きました。

定期総会に当たり、専門職と両副支部長からご挨拶を頂きました。専門職からは臨床検査技師として質の向上や意識改革が必要であり、また資格取得に努め病院に検査科の存在意義を理解してもらうことなどについてのお話がありました。副支部長からは今後の活動予定などお話しして頂きました。引き続き、ＮＨＯ千葉医療センターの樋口副技師長を議長に議事をおこない、平成18年度経過・会計・監査報告、平成19年事業方針が承認され、新役員を選出し終了となりました。

平成19年度	関信支部千葉地区会役員
会　長	名賀　秀己（下志津）
副会長及び事務局長	鳥海　洋　（千　葉）
会　計	田添　テル子（下　総）
理　事	前澤　直樹　（千葉東）
	今井　達也　（下志津）
	高野　康壽　（国府台）
	岩崎　聖二　（がん東）
会計監査	峰岸　正明　（下志津）
	管　孝　（がん東）
役員推薦委員	山田　敏也　（下　総）
	宮原　行雄　（千葉東）

平成18年度千葉地区会研修会を終えて

NHO千葉医療センター　鳥　海　　洋

平成18年５月19日、14時30分からＮＨＯ下志津病院デイケア棟にて第39回千葉地区会研修会『ＮＳＴ活動について　臨床検査技師の関わりについて』と題し、講師にＮＨＯ相模原病院内科系診療部内科栄養管理室長 今泉博文先生をお招きしおこなわれました。先生は関東信越ブロック事務所統括部医療課栄養専門職も兼任されています。当日は東京での会議を終えてから我々千葉地区会研修会のためにお忙しい中お越し頂きました。

まず初めにＮＳＴについての説明から患者さんの栄養状態を知るための項目の説明など幅広く教えて頂きました。その中でも臨床検査技師のＮＳＴ活動での必要性について検査データの情報・管理、栄養評価に効率の良い検査項目の選択また事務処理など患者さんの為にもぜひ積極的に参画して頂きたいと話されました。

今回の研修会を終えるまではＮＳＴ（Nutrition Support Team）：栄養サポートチームについては漠然とした知識しか持っておらずどのような活動をするのかよくわかりませんでしたが、患者の栄養状態の悪化による感染管理まで行う必要がある事、また栄養状態の改善により入院期間の短縮、医療費の削減にまでつながる事が理解でき大変勉強になりました。今後ＮＳＴ活動に関われる機会が有れば是非参加していきたいと思います。

長野地区会

長野地区会交流会を終えて

NHO松本病院　古　田　　学

晴天に恵まれた６月２日(土)、上田市の上田プラザボウルにおいて長野県地区会交流会が開催されました。昨年は諸事情のため行われなかったので、二年ぶりのボーリング大会となりました。長野病院、東長野病院、中信松本病院、小諸高原病院、松本病院の5施設から総勢17名が参加し、大いに盛り上がりました。まずは各施設混合のグループに分かれボーリングを楽しみました。ストライクが出るたびに歓声が上がり、ハイタッチをして回るなど楽しくゲームを進めていくことが出来ました。

その後ボーリング場２階の焼肉屋「コリア」に場所を移し、懇親会と表彰式が行われました。ベストスコア、真ん中賞、ブービー賞などに豪華な？景品が贈呈されました。ボーリングで程よく疲れた体を、おいしい焼肉と冷えた飲み物で癒しながら談笑し和やかな時間を過ごしました。場も和んできたところで自己紹介が行われました。お酒の酔いも手伝ってか、それぞれの方々のキャラクターを垣間見ることが出来ました。

長野県は面積も広く施設が離れておりますので、他の施設の方々と交流する機会がなかなかありません。年に一度はこのような会（ボーリングとは限らず）を開催し親睦を深めていきたいと思います。